

武蔵野市自殺総合対策計画策定委員会（第4回）

会議要録

日時：平成31年1月29日（火）
午後6時30分～8時00分
場所：市役所西棟 801会議室

次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) パブリックコメントの結果報告及び方針について
 - (2) 武蔵野市自殺総合対策計画答申（案）について
 - (3) 基本施策4 生きることの促進要因への支援の名称について
3. その他

配付資料

- ・資料1 武蔵野市自殺総合対策計画答申（案）
- ・資料2 武蔵野市自殺総合対策計画【概要版】
- ・資料3 中間まとめからの主な変更点
- ・資料4 基本施策4 生きることの促進要因への支援の名称について
- ・資料5 武蔵野市自殺総合対策計画策定委員会（第3回）会議要録

出席者（敬称略）

委員長・・・福島喜代子（ルーテル学院大学総合人間学部教授）
副委員長・・・澁谷智子（成蹊大学文学部現代社会学科准教授）
委員・・・大垣和子（アクセスポイント吉祥寺ケアプラン）
佐藤清佳（武蔵野市民生児童委員協議会第二地区会長）
栖雲勅子（公募市民）
谷口拓（警視庁武蔵野警察署生活安全課長）
寺田忠正（東京消防庁武蔵野消防署警防課長）
那須一郎（一般社団法人武蔵野市医師会理事）
日高津多子（東京都多摩府中保健所地域保健推進担当課長）
藤原正光（株式会社武蔵境自動車教習所地域交流室長）
森新太郎（特定非営利活動法人ミュー統括施設長）

以上名簿順

※欠席：刀根武史（武蔵野市立第五中学校校長）

事務局・・・森安健康福祉部長、一ノ関健康課長、真柳障害者福祉課長

1. 開会

○事務局より配付資料の確認

2. 議事

(1) パブリックコメントの結果報告及び方針について

○本日の傍聴者1名

○事務局より資料1「武蔵野市自殺総合対策計画答申（案）」－「2 パブリックコメントに対する策定委員会取扱方針」（64、65ページ）の説明

※6名から12件の意見があった。

※資料の中で抜けている句読点等は確認し修正する。

委員長・・・事務局の説明について質問、意見をお願いしたい。

委員・・・53ページの表の下から2番めの「武蔵野プレイスB2 青少年活動支援」の活動内容を教えてほしい。これは43ページの「子ども（小学校就学～18歳未満）」の主要な施策と今後の方向性の一番下の項目でも言及されているようだ。

事務局・・・43ページでは「武蔵野プレイスでは、青少年が活動を通して社会との関わりを持つことができるよう、利用しやすく、様々な過ごし方ができる場を設定しています。」と記載しているが、19歳以下であれば、いつでも行くことができる場所として提供しているのは地下2階、B2となっている。43ページの表記には「B2」がないためわかりにくかったと思う。

委員長・・・それでは43ページの「武蔵野プレイス」は「武蔵野プレイスB2」と修正するか。

事務局・・・53ページの「武蔵野プレイスB2 青少年活動支援」と整合性を取った方が良い。

事務局・・・「B2」を表記する。

委員長・・・他にはどうか。

委員・・・64ページ、「2 パブリックコメントに対する策定委員会取扱方針」の番号4の意見に関して、メールやLINEの相談事業は記載の通りだと思う。以前の委員会で計画書自体をウェブで閲覧できるようにするという話があった。そこで東京都のLINEの相談事業へのアクセス方法の1つとしてQRコードが掲載されているように、91ページからの「相談窓口一覧」にもQRコードをつけると使い勝手が良いと思う。

事務局・・・これまでの委員会でウェブサイトの出し方にはさまざま意見をいただいているが、現在本章を策定中であり、実際にウェブでどのような形になるかまではまだ作り込める段階ではない。ご意見のようにQRコード等でアクセスできるようにはしたいと考えている。

委員長・・・パブリックコメントに対する策定委員会取扱方針は、後半の議題で関連する65ページの番号7、8を除き、記載の方向で進めるということによろしいか。

（委員からの異議はなし）

(2) 武蔵野市自殺総合対策計画答申（案）について

○事務局より資料1「武蔵野市自殺総合対策計画答申（案）」、中間まとめからの変更点の説明

- 委員長・・・それでは今の説明について意見、質問があればお願いしたい。
- 副委員長・・・答申で「武蔵野市自殺総合対策計画」の最大のアピールポイントを聞かれた場合、どう回答されるか。
- 事務局・・・各ライフステージに対応する基本施策を入れ、オールライフステージを対象にしたこと、また新規事業を取り入れていること、相談支援事業を切り出したということなどが特徴であると考えている。何に重きを置いていくかで言えば、地域におけるネットワークの強化と人材育成等々、あげていくとすべてになってしまうのだが、まずすべきことは洗い出しをして、ネットワークの強化と、人材の育成を行っていくこと。そして、それを市民に周知していくよう取り組んでいくことだ。
- 副委員長・・・アピールポイントが広範囲に及ぶとかえって“普通”というイメージにとらえられてしまうので、たとえ普通の事業であっても新規事業から1つか2つぐらいを取りあげても良いと思われる。
- 事務局・・・失礼した。34ページ以降に「施策の展開」があるが、その中で「新」、あるいは拡充の「拡」がつけられているものが新たな取り組みと言えるので、これらをよりクローズアップさせたい。また、32ページの「ライフステージ別 武蔵野市の主な自殺対策関連事業」の整理をしたこともあわせてアピールしたい。
- 事務局・・・私も今回の計画はこの32ページの「ライフステージ別 武蔵野市の主な自殺対策関連事業」をご覧くださいことが一番だと思っている。すべてのライフステージにわたって、ステージごとに基本的施策を打ち出している。言い換えれば従来、個々別々に行っていたものを、オールライフステージにわたるさまざまな施策を導入し、そして武蔵野市の自殺者がゼロとなるような計画を進めていくための新規事業も実施する、そういった一覧を作成したということが一番の核だと思っている。
- 委員長・・・他にはどうか。
- 委員・・・21ページ、「年齢階級別死因」の表に「悪性新生物」がすべての年代にわたって上位にあげられているが、これは癌という意味か。
- 事務局・・・肺癌、胃癌、大腸癌等々を一括して「悪性新生物」と表記している。
- 委員・・・すべての年代にわたって上位にあげられているので、癌であると言われたら納得もするが、私自身は初めて聞いた言葉なので注釈等があるとわかりやすい。
- 事務局・・・承知した。表記を工夫する。
- 委員・・・32ページ、「ライフステージ別 武蔵野市の主な自殺対策関連事業」は必要なことが網羅されていてよくできている。この図には「民生児童委員」がいくつも見られ、確かに相談に来ていただければつなぐことはできるが、逆に私たちの方から地域を知ることはうまくできていないので、今後はそちらの方面も考えていただけると良い。例えば、民生・児童委員に新生児が生まれたという情報は全くない。出産の情報が分かり顔をつなぐことができれば、地域として母親の様子など見守りことできる。小学校入学時には市民社協の事業である低所得者に出すことのできる「入学祝金」につなげることもできる。
- 委員長・・・今の発言は市の施策で考慮していただきたい。
- 委員・・・50ページの表の一番下、「介護従事者の悩み相談事業」の事業概要にある地域包括ケア人材育成センター事業の概要を教えてください。

事務局・・・北町1丁目の武蔵野市福祉公社の事務所内に、昨年（平成30年）12月1日、市の機関として設置した人材育成センターであり、事業運営は武蔵野市福祉公社に委託している。武蔵野市では介護保険制度が導入された際に、ケアマネジャー研修センターを設置して、高齢や障害の分野等すべてに精通しているベテランの職員がケアマネジャーのさまざまな悩みや相談を受けていた。その職員を地域包括ケア人材育成センター長として市から派遣し、武蔵野市福祉公社の職員として現在従事している。その職員を中心に複数職員で対応している。今のところ、その職員が相談対応することになるかと思う。また、地域包括ケア人材育成センターのウェブサイトのトップページ（<https://www.m-machigurumi.jp/>）の下の方にツイートがあって、「Twitterで表示」をクリックしていただくと、頻繁に更新が行われており、事業内容の情報提供をしているのがわかる。職員としてはフォロワー数が少ないと嘆いていたので、ぜひ皆さんの関係するケアマネジャーの方々に周知し、フォローしていただいて、必要に応じて悩みを相談していただきたい。昨年あたりから、介護従事者の方がさまざまなハラスメント被害を受けているという話も多く聞いていることから、事業所内では相談しにくい悩み事の相談を受け付ける窓口にしたい。また、対応が難しい法的な問題については、福祉公社が契約している法律事務所につながるなど、より重層的な支援を進めているところである。

委員長・・・32ページ、「ライフステージ別 武蔵野市の主な自殺対策関連事業」にその「介護従事者の相談事業」を入れたということは、37～39ページの基本施策3「相談支援事業の充実」のどこかにも入れる必要がある。

事務局・・・承知した。

委員・・・医師会としては実際に何をやるかということがかなり大事なことだと思っており、毎月、かかりつけ医を対象とした勉強会を実施している。その中では自殺対策専門の精神科の先生に来ていただき講演をしていただいている。また、ケアマネジャーの話も出たが、年に2回、メンタルヘルスに関する講演を依頼されて行っているが、そういう中でもここで出されたような話も取り上げていきたい。そうした活動を進めていることを、少しずつ市民の皆さんに伝わるようにしていきたい。

委員長・・・それはこの計画への意見ということではなく、医師会で計画されていることをお話しただいたという認識でよろしいか。

委員・・・その通りである。

委員・・・32ページ、「ライフステージ別 武蔵野市の主な自殺対策関連事業」を見ると、さまざまな事業が網羅されボリュームがあって良いが、特に重要になってくるのが45ページの基本施策5「市民への周知・啓発」であり、今後力を入れて取り組んでいく必要があるだろう。相談に来られる方というのは、勇気をもって1歩踏み出せている方であるが、相談に来られない方というのは、ネガティブな考え方をしてしまう傾向にあると思われる。そのような方々にもう少し手を差し伸べられるよう取り組めることがないか。武蔵野市内の民間企業、商工会議所などとも協力して市が実施している取組を周知できると良い。

事務局・・・45ページ、基本施策5「市民への周知・啓発」の「様々な媒体を活用した周知・啓発」の一番上の黒丸には、つながる部分として現在具体的に実施しているもの、今

後実施していくものを記載しているが、それ以外とはまったくつながらないというわけではないので、その可能性を残した書きぶりにすべきかどうかというところ。検討させていただく。

- 委員・・・先ほどの武蔵野プレイスB2に関してだが、武蔵野プレイスには小さなお子さんや親子連れなどさまざまな方が訪れるため、気軽に相談できる場所があると良い。個人的な話だが、以前、高校時代の友人がその日、命を絶とうと考えていたとき、たまたま私の知人が声をかけたことで自殺を思いとどまったということがあった。そういう意味では、武蔵野プレイスには19歳未満対象のB2に限らず、それ以外の人たちも気軽に立ち寄って話ができる場所があると良いと思うし、そのアピールもしてもらえると良い。
- 事務局・・・私は以前、武蔵野プレイスの副館長をしていたが、先ほどもあったように、例えば相談窓口を武蔵野プレイスに設置しても、相談に来られない方というのは一定数いて、おそらくそうした方々は武蔵野プレイスにも来ていただけないと思われる。ただ、武蔵野プレイスは人が集まる場所、人と人がつながる場所であり、何気ない会話によって、またがんばってみようという気持ちのきっかけとなるなることもあるので、自殺対策関連と言えなくもない。表記については武蔵野プレイスにも確認をして検討する。
- 事務局・・・私どもでは市役所で実施するのではなく、より身近なところに出前講座などに出かけていき、メンタルヘルスからこころの健康、自殺防止も含めて話をする場は設けており、例えば「市民こころの健康支援事業」は気軽に訪ねやすい場所として武蔵野プレイスを活用して実施している。武蔵野プレイスに限らず、さまざまな場所に私たちは出向いていき、そのような事業、場を設けていくということは計画にも記載しており、こうした対応を実施していくということでご理解いただきたい。
- 委員・・・91ページからの「相談窓口一覧」には多くの窓口が記載されているが、例えば市に電話をかけると窓口の方が対応部署に回してくれるように、相談したい方が電話をかけて時間帯によって必要な機関へとつないでくれる専用の一次的な窓口の記載があっても良いかと思えた。
- 事務局・・・ワンストップ窓口を設置するにはそうしたセクションがないため、なかなか難しい。受付時間は「相談窓口一覧」に記載しており、これを見た方には一定程度わかるようにしている。
- 委員長・・・市役所の代表番号は個々の番号以外にあるのか。
- 事務局・・・ある。
- 委員長・・・そこに相談の電話をかけると、部署に回してくれるのか。以前の委員会で話しがあったように、全職員が自殺予防に関する基礎研修を受けているから基本的に対応できるはずである。
- 事務局・・・夜間帯の電話は対応が困難である。
- 委員長・・・夜間はともかく昼間は対応できるのか。
- 事務局・・・最初の電話には市職員が出るわけではなく、委託業者の職員が出て、必要なところに回すので、悩み相談ということで電話があった場合は・・・。
- 事務局・・・昔は市役所の代表に電話をかければ内容に応じて各階に割り振っていたのだが、現

在はダイヤルインが基本となっており、問い合わせ内容によって案内をしていくのが大前提である。ただ、今委員長が言われたように、例えばこの一覧を電話交換オペレーターに渡して、必要などころへつなげてもらうよう伝えることはできると思う。

委員長・・・それでは、せめて91ページ一番上の「【市】・・・武蔵野市役所」に代表番号を入れておくのはどうか。どこにかければ良いかわからないという指摘は確かにそのとおりだと思う。市のウェブサイトも見ていてもそう思ったのだが、「目的別から探す」ではかわいらしいアイコンをクリックして飛べるようになっているが、あのようなタイプの“入口”が自殺予防に関してはない。今の問題提起は検討していただきたい。

委員長・・・市の運営上の課題として検討させていただきたい。

委員・・・38、39ページの基本施策3「相談支援事業の充実」のライフステージごとの表を見ると、今回さまざまな事業を展開されていると思うが、企業や学校に属さない方にはどのような窓口をもって対応するのかと感じた。私たちの会社でもおかしいと思っても専門医に相談するまでは非常に苦勞することがあるので、気軽に相談できるところが明確にわかるようになってほしい。

委員長・・・今のことと関連するので91ページからの「相談窓口一覧」は検討をお願いしたい。

委員・・・計画の内容は盛りだくさんで、今後はこの計画を具体的に実行していると、市民の方々が実感できるような進行管理が大事になってくる。加えて、この計画を多くの市民の方にご覧いただくための活動をどうするか、例えば研修会で必ずこの計画を説明していくとか、職員や関係者以外でも支える側となる市民の方々に、どれだけ計画内容を説明する機会を持てるかということを考えていくことが、実行性のある1つの取り組みとなっていくと思われた。

委員長・・・各委員から意見、感想を伺った。それでは今の事務局との質疑応答で進められた方向で最終的な答申案をまとめていただきたい。まだ最後の議題があるが、それ以外はこの方向で概ねよろしいか。

(委員からの異議はなし)

(3) 基本施策4 生きることの促進要因への支援の名称について

○事務局より資料4「基本施策4 生きることの促進要因への支援の名称について」の説明

委員長・・・基本施策4「生きることの促進要因への支援」という文言は、計画の本編に散見されるが、その内容に合致した名称にしようとするほど長い表記になりがちである。ただ、例えば27ページ、「計画の基本イメージ」にあるような計画の全体像を示す際に、各々の柱の“見た目”の文字バランスも実は大事だと思う。基本施策1「地域におけるネットワークの強化」が最も文字数が多く、この並びにおける基本施策4をどのような名称にするかという観点から考える必要もある。出されている名称案はいずれも「、」が入っているが、他の基本施策には入っていないので選ぶのは難しいと思うが、ぜひ意見をいただきたい。

副委員長・・・文字数をカウントしたところ、基本施策1の「地域におけるネットワークの強化」

は15文字、名称案では2番めの「寄り添い、支える取り組みへの支援」の文字数が最も多いが、句読点を除けば15文字なので何とかいけると思う。

委員・・・せっかくパブリックコメントで提案いただいたということも考慮すると、4番めの「生きやすさを守り、促す支援」になるのだが、ただ「促す」というのは、される側のイメージがあって、この地域で皆で自殺対策への取り組んでいこうという考え方でいくと、3番めの「いのちを支える、育む支援」と組み合わせて、「生きやすさを守り、育む支援」とするのが良いと思う。

委員長・・・私は2番めの「寄り添い、支える取り組みへの支援」に近いものが良いのだが、やや文字数が多いと感じる。それと私も「生きやすさを育む」というフレーズを考えていたところだ。

副委員長・・・「生きやすさを育む」とはイメージとしては具体的にどの部分にあたるのか。

委員長・・・地域の中で生きていくことを支援する全般的な居場所や、他の人と知り合える場といったタイプの事業が51ページからの基本施策4「生きることの促進要因への支援」の一覧に掲載がある。

副委員長・・・「生きやすさを守り、育む支援」は温かみがあって良い。「守り、育む」は子育て等の計画で使われていそうだが、そこに「生きやすさ」と入るのは良い気がする。個人的には2番めの「寄り添い、支える取り組みへの支援」も良いと思うが、どちらの案も具体性がある。

委員長・・・「寄り添い、生きやすさを育む支援」とするか。

委員・・・「いのち」とか「生きやすさ」という言葉は直接的過ぎるので、2番めの「寄り添い、支える取り組みへの支援」の方が優しく感じられて良い。

委員長・・・「寄り添い、生きやすさを育む支援」とすると、「生きやすさ」が入るのであまり適当ではないということか。他にはどうか。

委員・・・私が「生きやすさを守り、育む支援」と提案したのは、基本施策4の中身は未遂者や生活困窮というリスクの高い方々への取り組みのことだと思えたので、生きてほしいということから、「生きやすさ」という言葉を組み込んで考えた。

委員長・・・私はその話はあまり触れずに説明してしまったのだが、それも含まれている。2番めの「寄り添い、支える取り組みへの支援」だが、基本施策には「取り組み」という言葉は入れたくない。「寄り添い」は残して良いと思うが、「寄り添い」につながる良い言葉が思いつかない。

副委員長・・・「生きやすさを育み、寄り添う支援」ではどうか。「いのち」に比べると「生きやすさ」の方が少し和らいだ感が出る。

委員・・・私も最初に「寄り添い」に目がいったので、それが良いと思う。いのちの問題というのは難しいと思うので、「生きやすさ」の方が柔らかい感じがあって良い。

委員長・・・気になるのは27ページの図もそうだが、本編40ページの説明文がどうなるか。もともと国では「生きることの促進要因への支援」と記載されていて、その説明文が「生きることの阻害要因」、「生きることの促進要因」となっている。名称を変更した場合の説明文の扱いについては事務局及び正・副委員長で最終的に整合性を取らざるを得ないだろう。説明文の促進要因は、自己肯定感等も意識しているし、阻害要因も生活苦や離別・死別も意識していたということなので、それを考えるとなおさら

最後にあげられた「生きやすさを育み、寄り添う支援」という案は適切かと思えてきた。ただ、現在の基本施策4「生きることの促進要因への支援」という文言は計画全編に散見されるので、確認して置き換えていただくことになる。それでは基本施策4は「生きやすさを育み、寄り添う支援」とさせていただくがよろしいか。

(委員からの異議はなし)

3. その他

事務局・・・ どうにか基本施策4の名称も確定したので、この変更をもとに事務局で整理していきたい。委員の皆さんには長期間、また遅い時間までご協力をいただいた。ご多用の中、委員会への出席、闊達な議論をいただいたことに感謝したい。いただいた意見をもとに最終的な案としてまとめていきたいと考えている。但し、今回も意見シートを配付しているので、また何か意見があればお寄せいただきたい。いただいた意見は、本日いただいた意見も含めて修正をかけ、正・副委員長に確認をいただき、最終的な答申案としたい。また、議事録も出来上がり次第、皆さんにお送りしてご確認いただく予定である。

今後の予定であるが、答申は2月18日(月)午後2時半より、委員長から市長宛に報告をしていただく予定となっている。については委員の皆さんの中で同席が可能な方は、早めにご連絡をいただきたい。答申の場に一緒にいらしていただければ、市長と意見交換等もできるかと思う。その後、3月下旬までに計画の印刷等をして、完成、公表という流れになる。完成後は委員の皆さんに郵送する。

委員長・・・ それでは今回が最後の委員会となるので、皆さんから一言ずつ感想をいただく。

委員・・・ このような委員会に参加するのは今回が初めての体験であり、うまく意見が伝えられず申し訳ない。私に関わっている部分は高齢者や障害者なのだが、それに加えて家族で精神的な病に罹患される方がかなり増加していると感じている。医療機関や学校、家族の中で気づけない、気づかれない、抱え込んでいて孤独を感じている方がかなり多くなっているため、地域で支えていくということが今後どれだけ大切になっていくかということを経験して実感した。私が介護支援専門員として関わっていく中では、自分が担当している利用者だけではなく、その家族や地域の方々など、接する機会がある方々に対しては、広い視野を持って専門の方へつなげていくことが今後とても重要であると実感した。参加させていただき、本当に勉強となったので感謝したい。

委員・・・ 私も大した意見を言うことができず自分自身が情けないと思えたが、良い勉強をさせていただいた。市にはさまざまな事業があり、多くの相談機関が揃っているのに、そこへたどり着けない方に対するアプローチの方法が見いだせなかったことが心残りである。相談機関につなぐことができれば、きっとどこかで誰かが救いの手を差し伸べてくれると思うが、そこにたどり着けない人たちには地域や私たち民生児童委員で何か力になれることがあれば良いと思えた。

委員・・・ 先ほど知人からの声かけひとつで自殺を思いとどまったという友人の話を上上げたが、やはり人はどんなところでも人との関わりを持っているので、さまざまな立場の方がいるかと思うが、気を付けながら“お互い様”の気持ちで生きていけた

ら良いと思う。大変難しい計画の委員会で最初は私には無理だと思っていたが、参加して勉強になったことも多く、本当に感謝したい。

委員・・・事務局の皆さんも大変ご苦労されたかと思う。私も本当に良い勉強をさせていただいた。今後、私も仕事の糧になるように皆さんの協力を得ながら、何とか一人でも自殺を考えている方を救っていきたいと思う。

委員・・・大変勉強になる委員会だった。さまざまな事業を展開していく中で、若い人たちに多くの事業があることを知っていただき、一人でも命を絶つ方が少なくなるような世の中にしていけると良い。

委員・・・計画策定に携わらせていただけたのは大変貴重な体験であり、事務局の方が苦労されている姿も見られ、大変勉強になった。私自身としては計画が出来上がっていくプロセスに携わらせていただいたことで、単純に冊子を読むよりも深い理解となった。ぜひこの経験を実践に生かして努力していきたい。

委員・・・私はこの委員会に参加するまで、自殺死亡者数が交通事故死者数よりも遥かに多いことをまったく知らなかった。知ることによって寄り添うこともできるし、何か手助けになることを考えたり、行動に移したりすることができるはず。そういう意味では当委員会を通じて学ばせていただいたことがとても多い。今後、会社やさまざまな地域活動の場で少しでもお役に立てるよう努力していきたい。

委員・・・東京都の計画策定の際は東京都という大きな範囲の計画であったこともあり、人の温かみを感じづらかった。一方、武蔵野市のパブリックコメントは、気持ちの伝わるコメントであったことがとても良い。私は保健師で約30年間、支援者としての仕事をしてきたが、以前駅でホームから飛び込もうとした方を後ろから抱きかかえて事なきを得たことがあったのだが、現実にもそうしたことが本当に起こることがあるのだと改めて感じたこともあり、今回の計画が多くの市民に行き届いてくれたら良いと思っている。

委員・・・私は武蔵野市で高齢者等の関係にも携わらせていただいている立場から言うと、市の高齢者支援は他市と比較してうまく機能していると思う。それは高齢者総合センターがあることで、何かあれば相談ができるという流れができあがっているし、そのあとのかかりつけ医への相談、かかりつけ医では対応が難しい場合には専門の先生につなぐことがシステムティックにできあがっているからだろう。しかし自殺防止に関してはまだそこまでは達していないので、市民の方々があそこに相談すれば次につなげてもらえるのだということが、よりわかりやすい形になっていくと良い。

副委員長・・・武蔵野市のさまざまな領域で活躍されている方々とうこうして1つのテーマについて話し合えたことは本当に勉強となることが多く、この機会をいただいたことを感謝したい。実際にこのご縁がきっかけで、NPO法人のMEWさんにご協力いただき、当事者を含む8名の方が私の勤める大学に来て、学生たちにこころの健康に関する講座をして下さった。精神的な問題というのは、障害の枠組みで授業で語るにしても、これまでどこかタブーの雰囲気があったのだが、実際に実施してみると、このような授業の重要性、必要性を、多くの学生がコメントペーパーに書いていた。それもこうした機会を与えていただいたが故だと思っている。

それと告知になってしまうが、介護をされている方でも特に家族の介護やケアをしている18歳未満の子どもたちにとって、相談できる場所がわからないという問題がある。英国ではそうした支援が進んでいることから、2月17日（日）に英国から支援家たちを招き、精神的な問題を抱えている親がいるとか、高次脳機能障害のケアの経験を持つ人たちと一緒に大学でパネルディスカッションを行う予定である。特に申込みや参加費用もないので、興味のある方はぜひ気軽に足をお運びいただきたい。

委員長・・・全4回、予定の開催回数で武蔵野市自殺総合対策計画をまとめることができたのは皆様のご協力の賜物である。私自身も基礎自治体レベルで自殺総合対策の計画に関わるのは初めてだったので、そのプロセスとか、あるいは市職員が資料を積み上げていく様子を間近に拝見しとても勉強になった。武蔵野市ではいずれの施策においても全国を常に引っ張っていくリーダー的な存在の自治体であるので、このような形で計画策定に関わらせていただけたことは光栄であった。あとは来月、無事に市長に答申をしていきたい。

事務局・・・委員の皆さんには第1回の7月17日から半年以上にわたり検討をいただいた。全4回でまとめあげるとするのは、かなり無理なお願いであったと思っており、ご協力に感謝したい。これを答申として2月18日（月）に市長に提出をいただいた上で、私どもの行政計画として整理をして、年度末までには公表したい。ただ、先ほどご指摘もあったように、計画は作って終わりということではないと承知している。この計画が多くの方にご覧いただけるよう、あるいは私どもが施策を実行するにあたり、計画に基づいたさまざまな事業を展開していくということを、いかに多くの市民の方に伝えられるかということが大事だと思っている。それにあたっては委員の皆さんから、現時点でもまだ多くの課題があると指摘いただいた。計画を実行しながら、そうした課題の解決も進めていきたい。それがPDCAサイクルに則った事業計画施策の進行であると改めて実感させていただいた。そして最後まで難題だったのは基本施策4の「生きることの促進要因への支援」の名称である。委員長が言われた27ページ、「計画のイメージ」を見ると、基本施策が5つ並んでいるが、行政が策定する計画としてはごく一般的な基本施策である。しかし、実際に今悩みを抱えられている方に届くかと言うと、とりわけ基本施策4「生きることの促進要因への支援」という文言ではおそらく届かないだろうと改めて感じた。それを届く文言にするためには、皆さんから多くのお知恵を拝借しながら整理をしないとできないものだという事を感じた。私もこの年齢で今更ではあるが、どうすれば私たちが進めていこうと思っているものが、市民の皆さんに届き、それがきちんと身を結んで形あるものになっていくのかということ、今回の策定委員会の中で改めて考えさせていただいた。この計画が市民の皆さんに行き届くことによって、自殺者ゼロの武蔵野市となっていくための第一歩となるようにしたい。長期間、多忙である夜間にご出席をいただき、熱心な議論をいただいたこと、本当にありがたく思っている。これからは私どもが、皆さんに策定していただいた計画をしっかりと実行に移して基本目標を達成していく、そしてさらに精査していく所存である。そしてそれが私たちに課せられた課題だと思っているので、それに向けて邁進していきたい。

ありがとうございました。

以上